

「空っ風と迷い人の遁走曲 紹介文」

岡和田晃

片理誠の『エクリップス・フェイズ』小説「空っ風と迷い人の遁走曲」をお届けしたい。
 「[黄泉の淵を巡る](#)」、「[Swing the Sun](#)」に続く「ジヨニイ・スパイス船長」シリーズ第三弾だが、前二作とは少し趣きを異にし、番外編的な仕様になっている。それゆえ、本作から読み進めていただいてもいっこうに問題ない。むしろ未読の読者は、本作を読んだから「黄泉の淵を巡る」に進んでいただくのがいいだろうか。

さて、「SF Prologue Wave」の『エクリップス・フェイズ』小説では、火星を舞台にすることは、珍しくない。本作の舞台も火星だが、そのフロンティア的側面のダークサイドである、ダシル・ハメットのノワール小説を彷彿させる——『マルタの鷹』というべきか、それとも『血の収穫』か——陰鬱な雰囲気、インフォモーヴ情報体リラ・ホーリームーンが絡んでくる。

本作が面白いのは、フオーク分岐体が重要なキーワードとなっていることだ。火星にフオーク

というと、齋藤路恵＋蔵原大「マーズ・サイクラーの情報屋」が記憶に新しいが、片理誠の本作「空っ風と迷い人の遁走曲」は、角度を変えつつ内面描写よりもプロットの“謎”そのものへより踏み込んだ形で、この問題に向き合っている。『ブレードランナー』をはじめとしたディック原作映画が好きな方は、ぜひ本作もひもといてみてほしい。

2014年の片理誠は、待望の長篇『ガリレイドナナ ―月光の女神たち―』（朝日新聞出版）をリリースした。これは人気アニメのノベライズとなっているが、オリジナルのエピソードをもとに書かれており、スピードに満ちた圧倒的なドライブ感、原作を知らない読者でも充分に楽しめる。『ガリレイドナナ』が気に入った読者は、「ジョニー・スパイス」シリーズもきつとお気に召すだろう。

また、「SFマガジン」2014年6月号に発表されたジュヴナイル作品「たとえ世界が変わっても」では、『エクリプス・フェイズ』と同様に大きな技術的進展を遂げた未来にて、祖父が遺したサポート・ロボット「ラグナ」と、それを受け継いだ少年や友人たちとの、心あたたまる成長物語が描かれる。ラグナはクラウドに接続されていないスタンドアロン型のサポート・ロボットだが、彼の描写は『エクリプス・フェイズ』に親しむうえで、大きく参考になるだろう。